The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 228. AUGUST, 30TH. 1890.

第二百二十八號目次

EDITORIAL:—No Teacher, no Pupil. Three Methods of Educating Girls.

MISCELLANEOUS:—Why are Women Excluded from Political Assemblies? (Toyo Shimizu) An Interview with Mrs. Hirawo. Amanda Smith. A Summer Journal. Tear-drops. Lord, We Adore Thee! Midnight Stars. Humourous.

CRITICAL NOTES:—"Sokiroku." "Utakata no Ki." After Reading Ukiyo.

NOVEL:—"Little Lord Fauntleroy." (A Translation.)

OPEN LETTERS.

CONTRIBUTED ARTICLES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

社說　雜錄　批評　小說　寄書　時事

我國の現時、先生なし弟子なし○女子敎育に、三つの法あり

何故に女子は、政談集會に參聽するとを許されざる乎(淸水豐子)○海邊の夕○靜[illegible]平尾[illegible]史を訪ふ○黑[illegible]アマンダ、スミス[illegible]○[illegible]日記鈔○涙滴々○神よ、われは讃[illegible]○[illegible]夜の[illegible]しきよめぬ

[illegible]

想起す○うたかたの記○「うき世」を讀んで

小公子

婦人の職務○チー、醜の女の最も純潔!○交詢

みをつくし一出一沒○合同談判破裂の顚末○元寇紀念碑○貧女之友○市川粂八様にまゐらす○劇場に於ける男女○女醫學校○私立女子授産場○女子卒業學校○岡山孤兒院○鳥取出獄人保護會○小學校女生の順序○横濱婦人慈善會○閉校式、開校式○女學校の遊び物○平民院○レーナン、ゾゥを評す○[illegible]邊岡に於ける恐小說○伊澤けい女史○京都府高等女學校○稻垣秋香女史○靜岡婦人矯風會○通信○[illegible]記ホ○

週報

WOMEN IN JAPAN.

I. *It is a pleasure to record what our correspondent writes us of a social gathering at Imabari, Iyo. Eleven different schools in all parts of the Empire seem to have sent back their students for the summer to their respective homes in this city of Shikoku; and they agreed to come together for mutual acquaintance and recreation. There were reports from different representatives and experiences were freely exchanged. There were music singing, games and a little collation before the general breaking up.*

II. *One of the minor Mission Schools on the Yokohama Bluff has been situated at No. 67. Miss Brown who has been conducting the school, has lately been to America, and has just come back with a contributed sum of several thousands. Preparations are being made to carry on the institution on a larger scale.*

III. *A correspondent of the W. C. S. U. writes of the numerous Japanese women who arrive at San Francisco from time to time to carry on a shameful trade. The Christian ladies who are staying in the city have agreed to look them up to rescue them if possible from a life of sin and degradation. Consequently every new arrival is met by them with kind inquiries and offers of help. Their endeavors have as yet been attended with little or no success. However we are glad to hear that they are proceeding with their work in an earnest Christian spirit.*

IV. *Miss Takezawa with five others have presented a memorial to the local government in order that kinder-garden teachers should be required to pass a certain fixed examination before meeting the numerous demands of these institutions.*

V. *According to the new law, actresses are licensed to take part in the same play with professionals of the other sex.*

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百二十八號 明治二十三年八月三十日發兌

社説

我國の現時、先生なし弟子なし

西經に云はく、汝曹人に教ゆることを思ふ莫れと。又云はく、汝曹須からく万國に福音を宣べ傳ふべし、其到る處ろに於て世の鹽となり光となるべしと。東經に云く、人の患は好みて人の師と爲るに在りと。又云く、君子に三つの樂しみあり、天下の英才を得て之を教育すること、其一也と。兩々の對語、相ひ矛盾するが如くにして實は然らず、人宜しく先づ人間となるべし、而して後ち其得る所ろを世に教ゆべしと云ふもの、東西の聖人共に軌を同じくして訓戒す。蓋し人は、一面に於ては當に徒弟たるべし、他の一面に於ては必らずや師父たらずんばある可らず、其能く徒弟たるものは、亦能く人の師父たることを得、未だ先づ學びずして而して能く教ゆるものはあらざる也。孔子夢に周公を想ふ、故に能く三千の門弟子を教ゆ、クリスト、天の父と同なり、故に能く万世の師父たり。

吾人は、今の同胞が道に睡むるの念紙よりも薄きを察し、日夜慨歎せずと云ふことなし。昔しは人、德の脩まらざるを以て終世の恨みとなし、文に武に道を懐ふて仁に到らんことを求めたりき。武士道と云ひ、大和魂しひと云ひ、大丈夫の道と云ふもの、若し之を最高至聖の道徳に照らし來れば、何ほ純ならざるもの多かりきとは云へども、今人が殆んど全く道を思はざるに較ぶれば、優等幾層頼母しき所實に澤なりき。之を以て今の説教壇は時として古への漢學者が講席に及ばず、今の會堂は時ありてか古への漢學塾の嚴そかなるに及ばざることあり、必竟是れ今人道に黽勉せざるが爲めにして、其弊、寺院チヨルチの内に及ぼし來る。日本全國は宛から市場に異ならず、喚呼喧騷する所ろのもの大抵厘毛の益を爭ふ、政治家も、教師も、神主も、衣きるものも、大率ね市人なり。

夫れ、今の人先づ人間たることを求めず、故に亦た人に教ゆること稀れなり。其所云る教ゆるものは、束脩に對して姓名を記臆し、月謝に對して藝を切賣にするもの也、未だ他の徒弟を擧て自己の如くに教導せんとするものはあらず。蓋し彼れ未だ自信する所あらざる也、其自信あらざるものは自己の未だ熟せざるに因る。自己未だ嘗て眞に徒弟たりしことあらず、故に今ま人の師父たること能はざる也。

人は云く、日本人は英雄崇拜の人種なりと。吾人は之を信せず。英雄を識るものは英雄なり。彼等本來英雄を識認するの念に薄し、よし辛ふじて之を識認すと云ふと雖ども、彼等之を崇拜すること能はず。此を以て彼等は嘗て何人の門に入りて其の徒弟たることなく、初めより驕然として自得せり。所謂る自得なるものは自から信ずるの謂には非ず、彼等高きを崇むるを知らず、故に自からを低しとすることなし、嚴そかなる天地を觀じて貴るゝことなく、遼遠なる人世の波の上に漂よひて、嘗て歸着する所ろを思ふことなし。喩へば頑童師父を知らず、餓鬼大將となりて群小を睥睨するに似たり。夫れ、彼等は何人の徒弟たりしことなし、故に亦た嘗て何人の師父たること能はず。万人万の心ありて億兆一切億兆の思想を有す、皆な獨學して固陋となり、固陋にして個々短矮なる大人に化成したるもの也。

日本現時に、能く徒弟たるものなし、故に亦能く師父たるものあらず。見よ、何處にか大先生ある。凡そ万國万世皆な一代を風靡するの先生なくんばあらず、而して今の日本に果して其人ありや。吾人は拜金宗の說明者あるを知る、亦た進化論の演繹者あるを知る、然れども未だ能く一世人をして仰望歎美せしむるの大敎師あるを聞かざる也。彼の富士山を見よ、根底廣く固く、温々として高く積み、巓きは黑雲濃霧を卓破して、青空洞々の天上に突出し、白雪皚々として千古汚塵に染みず。神洲今ま此類の偉人物ありや。

吾人は日本に於て此偉人物あらず、外國に於ては則はち之ありと云ふにあらず。蓋し、外國文明の士尙ほ決して數多の善人を數せず、然れども、智德完備、能く一世の師表たるもの往々存せざるにあらず、未だ我國方今の如く、一望四面、悉とく低くゝ且つ曲れるの灌木を以て充滿するには至らず。

道を求むるの士は、到る所ろに眞理を追求す、天地の靈なるを見ては粛然として愼しみ、大人豪傑に接しては欣然として師事す、日夜只だ道の進まざることを憂ひとなす。夫れ人如此く謙遜にして初めて人の門弟たることを得、門弟ありて則はち師父あり、師父に事ふるの人、即はち異日の先生たる也。

印度の傑士、日本の敎授を評して云はく、何んぞ輕佻にして子供らしきやと。吾人今の稱して先輩と云ふものに接する毎に、常に此感なくんばあらず。吾人は甚はだしく貴族的の裝飾を惡む、彼の徒らに邊幅を曲造して威を肉皮の外に裝はひ、腹に一物なくして而てに驕然自尊の躰を賣るの似而非もの

を見る毎に、嘔吐せん斗りの心地す、何を以て特更に嚴めしく虚飾するの人を求めんや。然れども、心中嚴然として光威自から相貌に形われ、風采堂々として一見莊重の氣四方に薰するの人に接すれば、百年の苦學一日豁悟するの感あり。吾人久しく如此き君子を慕ひ戀たふ、戀思年々にして未だ其人を見ず、而して今の先生なるものは猶ワンパク子僧の如し。

淡泊は英雄の本色、眞率は豪傑の特質なり、凡そ尤も大ひなるものは尤も小さし、君子大抵小兒に似たる所なくんばあらざる也。故に吾人は人の小供らしきを愛し、亦た其の淡泊にして眞率ならんことを希ふ。然れども小供らしきとは、輕々しきの謂にあらず、淡泊眞率とは輕薄うす紙の如きの謂にあらず。吾人、今人の無造作あるを見、之を英雄の飾りなきものと思はずして商人の無禮なるに均しとなし、土階三等の質素なるに非ずして餓へたる乞食の食を爭ふに似たりとは思ふ。吾人は同胞の更に嚴肅ならんことを祈るもの也。

心の嚴そかならざるものは道を求むることあし、道を求ざめるものは徒弟たること能はず、徒弟たらざるは即はち師父たること能わざるもの也。邦民個々自得して絕へて天を仰がず、局促一家を作りて蝸牛角上に意張り反る、未だ嘗て英雄を崇拜せずして、己れすでに英雄を自許し、未だ何人の門に入らずして既に先生なりとす。吾人は、日本國の土泥濘、同胞の足確立せざるを見る、根基到る所ろに薄弱也。

女子教育に三つの法あり

女生を教育するに、其法凡そ三つあり。第一は、現今普通に行はるゝ所の塾舍主義にして、幾十幾百の生徒を一つ處に合宿せしむるの方あり。第二は、別舍主義と稱し、近頃明治女學校に於て初めて施行せらるゝものたり、即ち塾を一つにせずして之を別々に分設し、一舍每に多くも十人內外の生徒を容れて、舍內を宛然家族の如くにするの方法なり。第三は、保姆主義と稱し、學識篤行ある婦人大率三十人以下の女生を預かり、其家を直ちに塾の如くにして學藝を實地に敎ゆるの方法なり。第一は、數多の敎師、數多の生徒を共に敎ゆるの手段あり、之に據るときは、塾中和睦せず、自から他人同宿するの感あり、特とに家政を實地に敎ゆるの便少なくして、書生只管ら理論學術にのみ偏するの失あらんとす。第二は、數多の敎師、數多の生徒を共に敎ゆるの傍ら、一舍を一家の如くにして此に於て家政を實地に敎授するの處置なり、

之に據るときは、舍内和樂親睦して、洋々融々の間だに自づから女經濟家の心得を知るの得わらんとす。甚はだ之に同じくして且つ少さか異なるは、第三の保姆主義なり、恰かも是れ別舍主義の別舍一つくを、一個單獨の女塾となし、其主婦たるべきものが親から學藝を教授するに似たり、即はち純然たる昔日の女塾にして、只異なる所ろは其塾長が能く文明の學藝を教授するとを得るの相違にあり。

竊かに女子教育進化の跡を鑑みるに、東西ともに、同轍を出でず。最初は、古風の保姆主義のみ行はるゝなり。女學やゝ規則正しくあるに連れて、所以る寄宿舍主義行はる。此主義行はるゝと久しくして漸やく其短所を覺り、即はち別舍主義を生ず。別舍主義の効能やゝ明らかなると共に遂に復たび保姆主義に返る。五十年前の英米女學界を見れば、僅かに古風の保姆主義を見る、爾來年々女子教育隆進して近年に至り、近ごろ、カッテーヂ、システム、及びパルチス、ホー、ムプランあるもの往々世に行はるゝに至れり、之れ英米に於ける進化のあと也。我國に於ては、最初、跡見花蹊女史が私塾の如きもの所々に之れあり、明治八九年及び十六七年以降、俄然として寄宿舍主義の女學校各所に勃興せしが、近日に至り、別舍主義の効能を承認するもの漸やく増加し、之と同時に保姆主義に一改進を催ふさんとするの兆候見はる。我國女子教育の方法、亦年と共に進歩し、やうやく細に到り微に入るものと云ふべき哉。

盖し保姆主義の効能は、師弟の間柄を温たかにし、其感化の行はるゝを切にし、別舍主義に優る更に一等の實地教育を與ふるとを得るの點にあり。左れど、其短所は、所云る師匠たるもの敢て万能管の才藝を有せざるがゆへに、己れ一人にて万事を十分に教授すると能はず、優所あると共に亦必らず劣所ありて、教授向自から陳腐となるの失あるに存す。然れども、其師匠が不得意の科目には、別に來り教ゆるの助教授を聘するとも、又は其塾生をして出でゝ一二時間づゝ相應の學校に通學せしめ、師匠は只だ其大體を化育するのみにても事足るべし。若し如此くせば、學藝に於ても十分ならざるの憾みなく、品德及び家政の心得に於ても亦間然する所ろなく、眞個に優美にして智德を兼ぬるの淑女を得べきか。たゞ恨む所ろは、能く得て此の大責任ある師匠となるものゝ稀なるにあり、故に女學大に進み、卒業女學士幾多の世故に經驗し、而して後ち敢て之に當る程の時世に到着せずんば、遂

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

に、賞むべき程の保姆主義を實行すると能はざる也。

本號記載する所ろの静女塾主平尾みつ女史が教育法、及び近日婦人矯風會頭淺井柞女史が新設せられんとするの塾舍の如きは、蓋し進歩したる保姆主義實行の氣運漸やく到來せるとを示す。吾人は女學の爲めに大ひに祝する處ろなくんばあらず。

雜録

何故に女子は、政談集會に參聽するとを許されざる乎

清水豊子

集會及政社法の改正は、吾等女性に一大驚愕を與へたり。然り、這回改正せられたる政社及集會法第四條幷に第廿四條中、女子の二字あるが爲に、吾等二千万の女子は皆悉く廢人となれり。予は政府が何故に一般女子を驅りて、斯く政界より拒絶放逐するの必要を認めたるかを疑ふものなり。又吾等女性は此世上に生存し、人間としては、各自一個の靈魂と總ての官能とを、具備し居るものなるに、獨り女子てふ名稱の下に在ればとて、其靈魂官能の自由をば、斯の如く男子よりも幾層酷に剝脱せらるゝは、果して何等の理由に基くものなる乎、予輩は之れを了解するに苦しむなり。

凡そ政治は一般國民を保護し且つ支配する所以のものなれば苟くも國民てふ名稱を蒙り居るものは、男となく女となく皆悉くこれに向つて相當の注意を用ひ相當の相談に與らねばならぬ筈のものなり。而して其法律は政治を行ふの上に便宜を與へ、人々個々の權利を保護して社會の秩序と安寧とを維持すべき筈のものなれば、法律も亦獨り男子に幸して女子に不幸を與ふるが如き偏頗ある者にて有るべき筈なし。然るに今此公平なるべき法律を以て却て人民の權利を○○するの具となし、國民として必ず與り聽では叶ざる政治の談論をも女子は全く之を聞を得ずとし、又國民に必要なる政治上の集會にも女子は一人も之に參會するを得ずと規定されたるものは、是將國民の權利を保護し國民の思想を發達せしむるといふ政治の精神に協るものか。將又國民をして、或る範圍内に於ては自由に其官能を働かしむるといふ立法の主旨に順へるもの乎。」予嘗て聞けるとあり、曰く凡そ人爲の法なるものは人爲の階級を超へて之を左右するの權利なしと、果して然らば今彼男子に就て制限するが如く、女子中の或者を限り、例へば學生或

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

員は政談集會に參聽するを得ずといふとあらんには、法律施政上の一制限としてなして之を不當なりとは致すまじきも、大凡女子たるものは一切………するを得ずと爲し、女子總躰を概括して悉く之れを禁遏する時に於ては、是恰も人間中の一種族に對して人爲の法を以て悉く其權利の切要なる部分を剝奪したるものゝ如し。予は人間が人間の上に斯の如き法律を施行し得るの權力あるや否やを、先づ第一に疑難せずんばある可らざるなり。

然れ共斯の如き事は予輩が今假に明言し得べき事柄に非るを以て予は只兎に角に婦女が政治上の談話を聽き若くは其集會に參會せば果して何等の不可あるかを、先づ借問せんと欲す。思ふに或は言ふとあらんとす、女子をして政談集會に與らしめば其勝や女子の本分たる育兒家政の務めを怠りて徒らに政治の爲に喧躁狂奔するの徒多からん、若し然らんには一家よりして一國に損害を及ぼすこと莫大なれば、豫め之を防ぎて先づ女子を政治談に與らしめざるの勝れるには如ずと。然れ共是は未だ其一を知つて其二を知ざる極めて姑息なる考案なりといふべきのみ。斯の如きの人は須らく考一考すべし、今若し人ありて一般男子を指して甲は農乙は工丙は商彼等各自其職分を帶るものなり、然るに今彼等政治の談に與りて政治の爲に喧躁する時は遂に其本分を忘るに至るべし、故に政事は之を政事家に委ね彼等は之を口にするは勿論之を耳にするの必要だになしと言はん時、一般男子果して之に首肯すべき乎。恐らくは彼等男子も亦怫然として怒るあらん。果して然らば今女子に對して汝は育兒整家の責あるが故に全く政談集會に參會するを得ずといふ是れ豈通論ならんや。時若し君主專制の時代ならば兎に角今日は既に立憲政躰の文明國となりて公議を輿論に決せんと明示せられたる時節なるに斯の如き薄弱なる原由によりて猥り女子を悉く政界より排斥せんとするが如きは豈不都合千萬の事柄には非ずや。況んや其職分の何たるに拘はらず苟しくも國民として此世に生存し政治の支配を受け居る以上は男女とも多少之に注意せざる可らざるは、素より理の當然なるをや。加之ならず多くの女子中には相當の財産を有し男子と等く獨立の生活を營み直接に國税を上納し公民に相當する資格をも有し居る者あるに非や、然に其義務に至りては男子と同く之を任せながら獨り其女子なるが爲にとて耳目の自由をだに與へざるは是れ抑も政府の仁乎。

或は曰はん女子は男子よりも其能力智識に於て劣る所あり故

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に之れをして一國の大事に關する政事上の談論を聞かしめ若くは其集會に與らしむるは害あるも益なき事なりと、是も亦謬れるの甚しきものあり。若し果して此說の如く能力なく智識なきものは政談を聽き或は政談に與るを得ずとせんか然らば男子中にも一の資格を定め此れは政談傍聽に適するものなり彼れは政談集會に參會するの資格あるものなりと、一々其能力と智識とを驗定せざる可らざるに非ずや。然るに、大膽にも無禮にも單に男女てふ名稱の下に賢不肖能不能を分ち男は權兵衛も八兵衛も皆政談集會參聽の資格あり女は如何なる秀才英傑も一切之れに參聽するの能力なしと認むと論斷す、豈に是れ輕忽冗々の事には非ずや。

尙ほ幾多の反對論の由て來る所を一々に擧げ示さんには種々の理屈らしき言譯も存するならむ。然れ共予は其理屈の何たるは問はざるも、玆に是非共女子をして政治界を去らしむべからざるものあるを發見せり。此事や其女性たるが故に、愈之をして政談に參聽せしめざる可らざるを知る、其女性なるが故に反つて之を禁ずるといふに至ては恰も木に緣て魚を求むるの極迂の如しと思はるゝ事あり。其は他に非ず、母と小兒との關係是あり。凡そ女子は概ね人の母妻となる故に其政治上の觀念は妻となりて夫を扶くる上に於ても是非とも必要なり。然れども猶且大切なるは母として子を育つるの上に於て特に要用なり。すべて人民が國家的の觀念を起し其國家を愛する所以のものは其國の歷史を知り其國現時の政治を知るより善きはなし、然るに今其第二の國民の母たるべき婦人をして悉く政治上の聾者たり啞者たらしめば養育者先づ國民てふ觀念を滅し愛國てふ志を失し遂に國家に對して自己が直接に責を荷へる所のものを悉く忘却す之が手に養育せらるゝ小兒に國民的思想の發揮を求むとも豈得べけんや、喩へば種なきに生へんことを求め雨露なきに伸んことを求むるに異ならず。此の如くして小兒は大人となる然れ共國家を思ふの忠實臣民たらざるなり。斯の如きの結果は之を現時の國民に徵するも事實既に昭々人々の明らかに認識し得る所に非ずや、然るに猶且是等女子と未來の國民とを驅りて以上一層政治に冷淡なる者とならしめんと欲す是豈國家の爲の得策ならんや。

之れに依りて是を見れば女子をして政談集會に參聽する克はざらしむるは、啻に正當の理由なきのみならず、故なくして國民の權利を剝ぎ、更に國家大不利の濁源を醸成するものなり。故に予は平素に於ては必しも女子が悉く政談集會に參聽せざ

れば國民的思想を發揮するを得ずと主張するものには非ざるも、之れを禁遏すといふ條例の發布せられたるが爲には、是非共一言せては止み難き事となりぬ。敢て微衷を吐露して天地四方に告白す。同感の姉妹等に奮起する所あれ。

海邊の夕

前號の紙上に於て月の舍氏が God is love の譜にてものせる歌を讀み、余が平日愛吟する所なればいと面白く感じぬ、余も亦拙なき筆にて同しきぶにて作る。假名にて、誤の分のあるし。

(一。)おきにこがねの、なみぞきらめく、
たかねのしらくも、ゆう日になびき。
見ゆるうみ山、いとうるはしな。

(二。)日かげもきゆれば、おきつなみじも、
いそべのたかねも、さびしくくれぬ。
めぐみのかみぞ、いとたのまるゝ。

(三。)かぎりも知られぬ、おほわはぞらに、
わらはるゝほしの、ひかりさやかに。
かみのさかえも、世にぞ知らるゝ。

(四。)よせてはくだくる、岸のしらあみ、
つきぬ花と見ゆ、やみよのうちも。
とうときかみの、さかえわらはる。

(五。)たかきたかねにも、ふかきうみにも、
たとへんかたあき、めぐみゆたけき。
あまつかみこそ、たうとかりけれ。

保姆主義の女塾

靜女塾主平尾光女史を訪ふ(三)　生野ふみ

靜女塾目下の敎育法如何

を問ひたるに、女史曰はるゝやう當塾は何事も皆實際に於て之を習熟せしむることゝなせり故に其敎育法は余程他校と異なれり其一二を擧げていはゞ先づ家政科の如き他の學校にありては往々書物にのみよりて之れを說き聞かすものもあれ共、當塾は否らず此塾舍を以て直に家事實習の處となすなり故に當塾の此方より見る時は私は生徒の爲に夫たるの地位に立ち當塾の姑婦或は取締などいふ人は之れを舅姑と見做さしめ生徒相互の間に於ては各々舅姑たるの關係を有たしむ又塾に在る下女下男などは之れを直に生徒の婢僕と見做さしめて其取扱を爲せ居れり故に塾舍といへばいふものゝ其點より見る時は一の家族なるに相違なし而して又私を訪ひ來る客ある時は直に之れを塾の客と見做して生徒をして應接發膳等の役に當らしむ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

る事とせり現に今朝來此處に茶菓を持ち來りしものは即ち當番の生徒なり晩餐等を供すべき客の來るあるも夫れが料理萬端の勞を採るものは皆生徒なり私は平素一通りの事を申聞せ置くの外は其時に當りては何事も指示せず生徒の爲すに任せ置つゝ客去りたる後靜に其惡しき點を擧げて之を批難し他日の參考と爲せ置くなり其他室内の掃除より帳簿の記載等に至るまで生徒をして皆其任に當らしめ居れり私は只其監督の責に任ずるのみ斯の如くなし居るを以て別に家政學として敎へざるも生徒は能く家事を實習し得るなり又作文の如きも強て記事論説などは書かせず主に私用文を作らせ居れり而して其習練の爲に常塾内に於ても生徒より私に何か云はんとする事ある時は直に之れを筆に顯して一の書翰となさしめ而して其意を私に輸さすことゝせりとて女史は机の傍にある籠より二三通の書翰を取出して示されたり之れを一覽するに其手跡といひ文意といひ何れも余程の修練を經られたるものとおぼし中にも或る一通の如きは（或る植木に水を遣らんとて其根を堀りたるに此處には蟻の巢わりたるものと覺しく多くの蟻の右往左往に散亂して水に漂ふさま誠に氣の毒にて彼等はいかなる大洪水とや思ふらむかと云々よんべは夫が爲に蟻の幽靈の襲ひ來る事もやと安き心地もなく云々（文意は能く覺へず爰には只其意を採るのみ））とありたるなど其文才の程もおもはれて大に床しく感じたるもありたりき夫より話習字の事に移りたるに女史は生徒の爲にとて認め置れし一二の手本を出して示されたり道は何れも皆女史の肉筆に係るものなりき女史のいはるゝ所に依れば女史は其生徒々々の氣風によりて其書風を換へて書き與へらるゝとの事なり又同じ生徒にても今日は此生徒は少し心志沮喪せりと思ふ時は故らに龍跳り虎嘯くともいふべき勇健なる字を書して與ふるといふ樣に生徒各自に就きて各其敎授法を異にし居るゝとの事なり思ふに是も亦一種の好方法なるべけれども多數の生徒を扱ふには迚も左樣なる譯には參るまじきか。

黑奴アマンダスミス女史信教始末

前號の紙上に於て女史が履歴、人物を少しく述べぬ。此に記せんとするは女史が基督教を奉ずる至にるの始末なり、女史の談話を記するものに由り、自敍の体もて譯す。

碓氷山人。

妾は紀元千八百五十六年に上帝を奉ぜし事明かに覺ゆ、妾もと學なく識なき者なりしかど上帝を奉ずれば即ち罪障消滅し救濟せらるゝよしを敎へられき妾は片田舍に住みて市街に出る事は二週に一回なりし、妾は罪業深きものと知し時熱涙を揮つて上帝に祈願し、斷食を爲し、悲嘆に沈み、聖書を讀みぬ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

、されど聖書を讀む愈博ければ妾の心益苦しみぬ、物あり妾と救主の間を隔つる如く感じ、日月風雲に向つて空しく號泣して叫べり、日月風雲汝等未だ罪せず、乞ふ余の悲愁を救主に告げよ、妾もと可憐の一罪人なりと、嗚呼上帝は至善至愛、妾の大罪惡をも尙寛容し玉ふ、悲しい哉之を悟らざりき。

一日失望の余端然として坐しぬ、時に心に覺えぬ、天外に聲あり、汝の信固し、汝は斷食し、愁嘆し、聖書を究めぬ、之を爲す月餘に亘る、神之を知る、今之を止めよと。時に亦聖靈降臨し、重ねて祈れと云へり、妾祈りぬ。三月十七日天晴れ日淸く時快く勤務を果し、暗室に入り熱禱して云へり、主よ、我心を淸め信仰を起させ玉へ、さらば妾は主に順從し生涯忠僕となつて事へまつらん、我祈を聞き玉はずば妾は此に死せん、救を與へずんば死を與へよ、救に入らずんば生きて此室を出でず、然り妾は既に一度罪に死せり、更らに救主に依て生るゝを知りぬ、妾此に於て呼んで云へり、主よ是より信ぜん、妾の罪障今滅せり、妾今晴天白日と共に淸くなりぬ、罪惡の羈絆を今ま脫す、主よ今ま信ずと妾は此時明白に主を、認めぬ、主は再三再四妾の許に降臨せしと覺ゆ。

妾は是より全く再生し身躰、心靈共に新らしく感じぬ、心中實に爽快を覺えぬ、何故先の信徒諸氏が斯く快きを告げ玉はざりしか、何故に神を信じて淸潔になるを語り玉はざりしかと獨思ひぬ、妾は今新らたに生るゝ妾の肉躰面貌は如何なる色を見するも是只だ日を隱すの霧、月を蔽ふの雲のみ妾は確かに再生しぬ、上帝の光榮今妾の心胸に充つ、妾の、喜び限りなし妾今之を人に語らまくほつす、二週間の後ならでは市街に出でず、夫れ迄は語り得ず、妾嘗て机に凭て度々祈りぬ、今其机の許に至りて之を拍て妾今救はれたりと叫びぬ、自ら疑ひ思へり、果して舊容を存するや否やと、他室に走つて明鏡に對し獨り打眺めぬ。

妾の友人は之を見て多少狂へりと思ひ、少しく心を靜かにし、思を沈めよと云へり、妾は尙安んぜず、身靈兩つながら犧牲となし、一生を上帝に捧げんと欲し、或は谷間に下りたち、或は山巓に至りて聖經を讀み、熱禱しぬ、日を經、時を過です間、次第に上帝を確認し、遂に今の如き信仰を得ぬ、是妾が宗教を信奉するに至りし經歷の大略なり云々。

死ぬ事がきらひの貧乏人が金をとる工夫を考へ付夏の夕方東橋より身を投げると見せれば誰れかたすけて呉るダローと人の多そふな時を見計ひ飛込まうとすると一人の老人が來て「水天宮の御守りをもつておいでかと尋づねられるに貧乏人は「なぜですか私は今身を投る處デス」「オヤソーデスカ着物を脫で身を投る人は初めてゞすから水稽古かと思ひました。

消夏錄（其三）

霞峯生

○古寺

七里が濱々頭盡き、漁村茅家の間を行く、數丁にして古刹あり、龍口寺と云ふ、昔日賢僧悟る所あり、佛教諸宗の間に自立して一派を創め、名づけて日蓮宗と呼べり、蓋し開宗の僧日蓮上人と號せしが故なるべし、日蓮宗頻りに國內に傳播す、諸宗の僧大に之を憎み、上人を捕へ、之を斬らんとす、將に白刄を頭に加へんとす、刄碎けて三片となりしとぞ、素より奇怪の妄誕に似たりと雖も、陽氣の到る處金石亦透る諺、吾人が大ひに學ぶ所あるべき傳說とす、轉た感深きまゝ斯くものす、

ますらをが岩もつらぬくまゝ心に
いかでやえばも碎けざるべき

上人の威德を後世に宜べ傳へんとて彼の龍口寺を奥せしあるべし、寺の側に岩洞あり、上人に隨從せる忠僕を幽せし所なりとぞ、他に見るべきものなし。

○富山千秋の雪

限りあれば烟も何時か絶えぬれど、昔の姿さやかにて、今尙清し富山千秋の雪、龍口寺西側に石階あり、昇る事數十層、山頂に達す、日晴れ、天清く、千里明かなり、海を隔てゝ松原を越え、群山に秀立するは是なん富岳なり、岳麓に一村雲たなびきぬ、富岳の景美は則はち美なりと雖も人の見る多く、亦云ふ所さはなり、今くだくしくものせんもふるめかし峰腰一首を附して止む。

ふじのねに高くも殘る白雪の
清き心のなつかしき哉

○江の島

上にものせるは江の島に至るの途次見たる事共あり、龍口寺を降りて數丁、江の島に至る、汐退けば步して行くべし、余が至れる時は海水漸く減ずる頃なりけり、島內に入り、或は昇り、或は下り、迂廻曲折して行く、

○稚兒が淵

島の南端に至り、岩石斷絶す、眼下に海水見ゆ、綠波高く打つ、音常に絶えず、所謂稚兒が淵是なり、遠く海上を眺むれば烟波の間に伊豆の山々茫乎として認むべし、是亦一種の佳景といふべし、

○洞穴

岩石の間を下り、海水近き所に至り、島麓をめぐり行く、一

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

大洞穴あり、深さ數十尺、殆ど暗黑なり、波高ければ洞奥に達するとぞ、洞穴の口頭に怒號する波濤内に反響して音ものすごく、水滴岩石より流れて袂を濕ほす。

○烏帽子岩

江の島の西方に當り、一岩海中に突出す、海岸を離る數十間其形よく、烏帽子に似たり、靑波此に碎けて常に白く見ゆ、島を去つて歸らんとす、先きに海水滴ちたりける處乾きぬ、歩して過ぐ、時に感を催して一首を得、口ずさみつゝ濱つたひして歸りぬ。

うつせみの世を渡る人心せよ
やがてあだ波よせもこそすれ

涙滴々

死すべかりし危き病ひ幸わひにして癒え、此頃ろ或る海ぎわに保養する、幼なき女生が文の初めに、

あなたが私の家に御見舞下すつた時は實に嬉しく思ひましたが又實に苦しう御座いました、愛する人に會ひながら笑ひ顏をするとの出來なかつた時は、病の苦しみと心の苦しみとにて實に言ふに言はれぬ思ひを致しました、其後ち私の病は日増にわるく成りました時には、唯々かなしく醫師が今日は余程よろしいと氣安めに申しても信ぜられず、唯日々死の事をのみ考へて居りました、床に就て居ても死の時が來たらばどうしよう斯うしよう又私はまだ神の與の子とならない何うしようと、いつも心配致して居りました。

神よわれは讃美す

清佐久

誰謂水無心、濃艶臨焉波變色。誰謂花不語、輕漾激焉影動居夫れ然り、山や、水や、月や、花や。こゝろあるの心もて之を迎ふれば、天地何物か心あらざるべき。六合何ものか情あらざるべき。唯われ眞如のこゝろなきを憂ふるのみ。見よ、月雲に覆はれて影暗く、人慾に蔽われてこゝろ暗し、此の暗きのこゝろもて之を觀る、天地何ものか心あるべき、六合何物か情あるべき、我れ今や救はれて、天地の嚴肅と共に天地のこゝろあるを認めぬ、喜樂限りあるなし、アヽわれ今や此の有心の天地有情の六合に優々するとも何等の幸ちぞ。況して姉と呼び弟と呼ばれて相思相愛の團欒に嘯く、そもそも、われ何の縁ありてか斯くは幸いなる。

此時イエス心に喜びて曰けるは、天地の主なる父よ、此事

を智者と達者とに隱して、赤子に顯し給ふを謝す、父よ然り、これ是の如きは意旨に適へるなり。
無常何くにある、無情何くにある。神よわれは爾の天地を讃美す。

深夜の星

かすみ

○蓮葉のつゆ

わざと欺むくは固より僞わりなり、左れど人をして自づから誤解するさまに思はするも亦た一つの僞わりなり、才を飾り學を華やかにして在るよりも高く見する、知らざるとを知らずとも云はず或ひは知るとありやと思はするなど、何れか皆僞わりにあらざらん。義人と稱するの人亦た此の種の僞わりに陷いるとあり、愼しまずんばある可らず、僧正遍昭の歌に、

はちす葉のにごりにしまぬ心もて
なにかは露を玉とあざむく、

○棄兒歌

斯身飢斯兒不育。斯兒不捨斯身飢。捨是邪不捨非邪。
人間恩愛斯心迷。愛々不禁無情淚。復弄兒面多苦思。
焦心頻囑良家救。欲去不忍別離悲。橋畔忽驚行人語。
殘月一聲杜鵑啼。（雲井龍雄）

○天成の詩人

詩人は造ると能はず、生るゝなり、如此く歌も亦た作くると能はず、自からに吟咏するなり。ミルトン、其の失樂園の詩の破頭に、

歌へよ天の詩人。ヲレブ、サイナイの聖なる嶺に於て、彼の羊詞（モゼス）を感動し、世の初め天と地と何如にして渾沌の界より出現せしかを歌はしめ、又たシヲンの山の聖り、シロアの流れの王を動かし、共に淸く歌はしめたる、天の詩人。わが今ま歌はんとする所ろに冥護を與へ、君が聖化をそゝぎてわれに吟ぜしめよ。

ミルトン、亦た自力を以て歌はざりし也。

○物あらそひ

花と、もみぢと、何れ

もみぢ葉の散り行く秋の夕べより、
花にものうき風をうらみん。

思へど適はぬと、恨みあると、いづれ

ながらへばせめて會ふ夜もありぬべし、
思はぬ人をまつぞかなしき。

上陽人が恨みと、王昭君が悲しみと、何れ
あげきゆく道の草葉の露よりも、
窓うつ雨や袖ぬらすらん。

○曹植怨詩行

明月照二高樓一。流光正徘徊。上有二愁思婦一。悲歎有二餘哀一。●
借問嘆者誰。自云宕子妻。夫行踰二十載一。賤妾常獨棲。●
念レ君過二於渴一。思レ君劇二於饑一。君作二高山栢一。妾爲二濁水泥一。●
北風行蕭々。烈々入二吾耳一。心中念二故人一。涙墜不レ能レ止。●
浮沈各異レ路。會合當二何諧一。願作二東北風一。吹レ我入二君懷一。●
君懷常不レ開。賤妾當二何依一。恩情中道絶。流止任二東西一。●
我欲レ竟二此曲一。此曲悲且長。今日樂二相樂一。別后莫二相忘一。●

○ 頼山陽

山陽が詩、慷慨鬱勃の間た、綿纏切々の情温かなる處ろ、尤とも愛讀すべし。幼時賦する所の七言に云ふ、

春風春雨已開レ花。春雨春風復散レ花。昨日知音今日非。
人間万事恰如花。

又、賦レ述レ懷、云

秋天高處自雄飛。食有二稻粱一棲有レ枝。何必侯門貪二一飽一。
碧勝三尺見二人孤一。

きよめぬ庭

其二十一　洒落齋主人

精進の剃螺

儉約と云へることゝ、吝嗇と云へることゝは、其形狀のいたく似よりたるよりして、此が差別をなすこといとかたし。されど其が精神に至りては、區別の大なること雪と炭よりも甚しからむ、容貌の類似たるが爲には、孔子も陽虎と見あやまられ、下手なる繪師かきたらんには、虎も猫に見ゆ。杜若の菖蒲に似たる、或は

雪と見ては今宵の月にうからまし
よしや吉野のさくらなりとも

と云へるは、櫻花のさき亂れたるさまの、雲に見まがふばかりなるを云へり。そのほかお轉婆娘の女丈夫に見へ、粗暴書生の豪傑に見え、狡猾者の慈善者に見え、僞善者の道德家に見え、不平論者の政治家に見え、押の強き醫師の名醫に見ゆるなど、擧つらふに遑あらず。其他眞鍮の黄金と似より、白銅の白金と似たる、或は錯迷狂者の大學者と見え、急性腸胃加答兒のコレラに見ゆるなどはいたくよろしからず。浴衣の幽靈に見え、痘斑の笑窪に見ゆるは、己が目のたしかならぬ爲なるべし。

されば儉約と云へることゝ、吝嗇と云へることゝは、いかにして別つ可きやと云ふに、そを一言に云はゞ、

儉約とは、己の身をつめて他人の爲に物をおしまず、と云ふこと、吝嗇とは、己他の差別なく、猥りに物吝みするを云ならめ。

今は昔、いたく吝嗇ある人ありけり、ある日此も吝嗇に名ある人訪ね來り、夏のことゝて、扇を使ひ居たるが、主人云ふやうは、其方は扇を使はるゝに、いかゞなさるゝや。客云ふ、半分結びおきて之を用ゐ、片々の破れし頃あとの半分を出して再度用う、とぞ云ひける。主人笑ひて、そはいたく大やうあり、わなみは始より全く開きて用うれども、扇の破れざらんため、身體の方動かすに依りて、一個扇、五年も十年も用にたつ可し、さるに半分づゝなりとも、扇の方用ゐたらんには、二年を超えずして破れなん。吾儕十年の昔考ふるやう、眼と云ふもの二つあり、日常二つながら使ふはいと用なし、一つ宛かたみ代りに用ゐんとて、一つの眼を布もて包みおき、十年をすぎぬ。さるに先つ頃より、開きおきし眼の、いたく勞れたる如くあれば、そを包みて、先に包みおきし眼を開き使ひしに、なにしおふ十年も世に出ざりしことなれば、見るもの、見るものみな知らぬもののみにて、人に遇ふも知らず、物見るも己のものにや、他人のものにや別ちがたく、いたく困りし、かゝるわざはせぬぞよからん」客は歸りぬ。

柱へ釘うたんと思ひければ、小者を向ひの家にやりて、金槌しばし借給はれと云ふ、向ひの主人出來りて、釘は竹の釘にや、金の釘にや、と問はれ、小者正直に金の釘にて候と答ふ、されば金槌の減らんほどに貸すことはならぬ、と云はれければ、小者いそぎ歸りて、此こと主人に語りけるに、さて〳〵吝嗇なるものも世にはあるよ、されば是非もなし、家の金槌出して釘うたんには、とて之をうちぬ。

一年太々講のやくにあたりて、伊勢の神宮に詣でぬ。歸り路は西の都、あるは浪速の市、他人につれられ、交際の爲なればとて、ぜひもなく見ありき、二月あまり經て家に歸り着きぬ。他の人々は家づとにとて、京都にては紅や笹色紅、よりよろずの半襟、御影堂の扇子、大阪にては友禪の染物、堺にては刃物の類、なにくれとなく買ひ來りて、他人の家へもやりぬ。此主人のみはかゝる長旅なし、いたく路用も使ひすてたるに、再度土産物など買はんは、盗人に逐錢、やくなし〳〵とて、東京には歸へりしかど、皆々より土産欲しと云はるゝに、なにがな贈らずばすむまじとて、ふと思ひ出し、古きひ

きちぎれたる箒のありけるを、一寸ほどづゝに切りて、紙に包み、家々にくばりぬ。人々何ならんとてひらき見るに、上に「しびれのくすり」と書きて、内に一寸ほどの藁片あり、うちには「御くすりつけやうつばきにて」、とかきたりしとなん。

これにてよしと思へるに、立歸り祝せよと、切にせまられ、こもよりどころなしとて、四人の客をあん招きける。やきものには、いとやすき剌螺をせんとて、己のともに五の剌螺を買ひけり、膳立今や出來なん頃、ふと今一人の客來れり。かへられよとは云はれず、いざ〳〵これへ、よきをりの御出なんど云ひて、席へ通しぬ。主人いそぎ勝手に行きて、やきものゝ剌螺一つ足るまじほどに、後にうちすてある剌螺殼に、蘿蔔牛房をきりませ、之をわなみにひけ、内々のことは大事なきほどに、ゆめあやまるな、とて席へもどり語らふうち、膳は出ぬ。皆々箸をとるに、いそがしきをりとて、普通の剌螺をぞ、主人にひきたる。主人蓋とりみて、いたくおどろきあはて、聲わあゝかして、

そこもとへ若しや精進の剌螺はまぎれては參らぬか。

批評

○想記錄　撫泉子

隨筆は名ある人の作るべきものにあらず、無名の人之を錄すれば、寢言とある、但だ烈士隱退の后に認たむれば奥床しき心地せらる。とは、誰やらの言ひし名言なり。鵬溪居士が想記錄の讀まるゝも亦た此邊の理由ありてなるべし。但だ西遊漫記ほどに文章の練れざるは、目下進步黨合同の事煩はしきの影響か。

月一聲

火曜日迄の想記錄中にては、彼此の評はあれど、詩歌の咄思附よく、一きは目立ちて見ゆ。中にも、月が啼たか時鳥の發句は、時鳥鳴つる方を眺むれば只有明の月ぞ殘れる、の歌の意味を言盡すとなし、一箇最とも大切なる意味を言洩せりとて、

しらみゆく空の光りに影きえて姿ばかりぞ有明の月

哀れ知る人に見せばや山里の秋の夜深き有あけの月

など云へる句中によく寫し出せる、有明の月の何如にも物色荒涼たる景色ありて、茲に夏曉早發の征人を送くるの情人、

悵然として名殘り惜しげに見ゆる彼方に、恨鳴長叫せる一聲を聞ける時の歌なるべし、斯く想像すれば、發句には最とも大切なる、有明の月てふ一觀念を全く言ひ落せりと論ず。清秀の思ひ付と云ふべし。

○うたかたの記　撫象子

鷗外作として、しがらみ草帋第十一號に見ゆ。「舞姫」と同じ趣むきの作なれど、此は美術學校を舞台とするを以て、宛からハウフルンが「マーブル、フハン」を讀む心地す。清麗にして雅致ある亦た同じ。漁史は蓋し物語風に長ず、淡々敍し去るの跡に限りなきの慘惰を遺す。王の死せしも、マリーの死せしも共に悲し、特に「國王横死の噂に掩はれて、レオニに近き漁師ハンスルが娘一人、おなじ時に溺れしといふを、問ふ人もなくて止みぬ」の結末、實に「うたかた」の記と云ふに適へり。舞姫に劣らざるの作とす。

○「うき世」を讀んで

かほる先生几下未だ清容に接せず候得共高作の一篇「うき世」女學雜誌々上に於て拜讀一讀再讀感仰の外無御座候鄙撰單簡意旨もまた格別珍しき事にはあらざるも感深く意長く語々肺腑より出で一片の眞情木石を泣かしむるに至ては撫象子の云はれし如くよし實歷話にはあらざるとも必らず架空の文字ならざるが故と存じ候生按んずるに先生は傳道の暇中に於て其の據る所を得三十一文字和文歌詩其他漢詩などに於て北の文辭の力を得られたるならん敍字々也麗也た哉也美也流ふる處也纖也軟也溫也和なる處而して其の悽惋煩悶骨に入る處を見て以て推するに屈ると存じ候要するに先生の作奔馳ならず雄峻ならず大ならず偉ならずと雖も恰も山間の泉枯葉背苔の間を潜りつ出でつ岩に咽び石に觸れて音響を鳴らすにも比すべきか雅韻ろ高くして清一點卑俗の處なきは蓋し先生が奉せらるゝ基督教の返照なるべし只惜むらくば女學雜誌記者に於て折々見受くるが如き無理の遊語ありて耳立ち亦悲語痛語罵發反發餘り多きに過ぎ悲觀的の處より快明天日を見るの處に移る過渡少し力ぬけて十分の筆勢を含まず境遇の轉變少なきに過ぎて或は人を倦ましむるの恐あり筆路流暢情婉眞摯なるも少しく婦人の筆に近く骨乏しく光焔なきと是れ蓋し先生の筆力至らざるにあらずして題目眞に如斯ならざるを得ざるの結果なるべし先生願くは此の豊厚ある同情の感を以て下層の民の要を憂ひ滿天下の腐臭汚穢を憤り正義の爲め自由の爲め平和のため進歩のため萬丈の光焔を吐かれんとを先生今已にユーゴーの哀史を讀む願くは其の文辭よりも纖携哲探よりも其の卷中に流動する一片の誠心精神大趣意大着眼を洞觀して彼哀史が「平民の福音書」と稱せらるゝ由緣を飲込みて他日緣大の筆をとりて日本改革の旗下に立つの一將たらんとを切望す更に願ふ先生學ぶと深く思ふと深く世途の辛酸を味ふと深く新民の爲めに感すると深く而して後大に其筆を揮はんとを才によりて氣によりて爲す所妙と雖とも也輕也浮根底あるの筆にして始めて沈楕石を穿つの力あるべし願くは先生年少才子と伍せず厭世者流に與せず慷慨の熱腸より悲憤の眞文章を沸し來れ吁文海紛々毀譽喧なし薄きと紙に似たりキリスト教の眞文學發々さし晨星の光の滯きより薄し都下幾多の青年孰れか鄙陋の筆を以て新日本の文學を創する者ぞ生不肖と雖ともまた墨塚の埋卒ともなりて一雜兵ともありて其麾下に立たんと欲する者先生自愛して小成に安んずるなかれ生は先生を以て他日また文海一方の勇將となるの人なりと信すればなり草卒筆を把て意盡し難し翼首の譯幸に之を恕せよ早々頓首。

築地の一寒生。

小説

小公子

第一回（下）

若松しづ子

段々月日が經つに隨つて、奇麗に可愛らしくなりましたが、稍成人して、短かい若物を着、大きな帽子を冠り、少さな車を引つぱつて、姆と外を歩いて居る處は實に見物で、よく往來の人の足を止めました。姆が家へ歸つては、今日馬車へ乘つた貴婦人が、坊ちやまを見るとつて、態々馬を止めさせ、坊ッちやまに言葉をおかけなさいましたよ、そうして、坊ッちやまが臆面なく、先ッからのお友だちかなんかの樣にお話しを遊ばすので、大層嬉しがつて行きましたよ、などとセドリックの母に話すとは度々でした。殆んど不思議と迄に思はるゝ程の、此子の愛嬌は、多分、少しも恐氣なく、極く氣輕に人に懐く處ろに在るのですが、これは生れ付、人を信ずる質て、人を思ひ遣る親切な心の中に自分も愉快に、人も愉快にし度と思ふ天性に起るものと、思はれます。それで、人の氣を見てとるとが大層早い方でしたが、是は兩親が互に相愛し、相思もひ、相庇ひ、相讓る處を見習つて、自然と其風に感染したものと見え升。家に在つては、不親切らしい、無禮な言葉を一言も聞たとはなく、いつも寵愛され、柔和く取扱かわれ升たから、其幼な心の中に、親切氣と温和な情が充ち滿ちて居り升た。例へば、父親が母に對して、極物和らかな言葉を用ゐるのを自然と聞覺へて、自身にも其眞似をする樣になり、又父が母親を庇ひ、保護するのを見ては、自分も母の爲に氣遣ふ樣になり升た。それ故、父がモー歸らないとになつて、母がそれを悲しんでゐる摸樣を見てとると同時に、サアこれからは、自分が一處懸命に慰なければならないのだといふとを覺悟して、其心持になり升た。まだ年は行ず、赤ん坊の樣なものでしたが、母の膝へ攀登つて、キスをして、ちゞれ頭を母の頸へすり寄せる時や、自分のおもちやや繪草紙を持つて來て見せたり、長い倚子の上に横になつてゐる母の側へソツトゐ寄つて、猫の樣にまるくなる樣な時でも、必ず其心持が有つたのでした。年の行かぬ身には、爲す術も知りませんかつたから、出來る丈のことをしてゐたのでしたが、自分のおもふよりは、結句充分の慰めが出來たのでした。いつか母が、遠くからゐる雇女のメレといふのに、「アノ、メレや、あの子は、子供心にわたしを慰める積りでゐるのだよ、キツト

そふだろうよ、時々可愛いゝ、不審そうな顔附をして、氣の毒そうに、わたしを見て居ると思ふと、側へ來て、わたしに甘へつくとか、何か見せるとかするもの、ほんとうに成人の樣な處があるから、今度氣を付て御覽よ」と云つたともありました。一つ宛年を重ねる中に、此子の如何にも可愛いゝ風采が大層に人を嬉しがらせました。母にとつては、此上もない好いお合手で、母は外に朋友を求めぬ位でした。それ故散歩するも、話しするも、遊ぶも、皆一處でした。極く少さい時から、本を讀むとを習つて、少し讀める樣になつてから、夜暖室爐の前の毛皮の上に横になつては、さまぐ\のものを聲高に讀々しました。其讀ものゝ中には、子供の悦ぶ談話もあり、時々は成人の讀そうな書物も稀には新聞も有ました。そうして、さういふ折には大層妙なことをいふので、奥さまが面白そうにお笑ひなさる聲をメレが臺處で聞々しました。それをまたメレが萬やの亭主にこふ云つてはなしました、

ほんとうに、だれだつて笑はずにゐられやしませんよ、あんな愛くるしひ様子をして、妙なことをお言なさるのだものを、マア聞ておくんなさい、此間大統領さまの選擧があつた跡で、臺處へ來て、兩手をポッケットへ突つ込んで、火の前へお立なすつた處は、丸で繪にでも書度樣でしたがす、何をおいひなさるかと思へば、マアこうあんですよ、メレや、僕は共和黨だよ、かあさまもそうなんだよ、おまへもそうかへ?、とおつしやるから、わたしが、イヽヘ〳〵、どふいたしまして、メレは民權黨の堅まりですよ。といふと、それは〳〵氣の毒そうな顔附をして、そうかへ、それは大變だよ、國が亡びるよ、民權黨はいけないんだから。といつてそれからといふものは、わたしを共和黨にするとつて、毎日の樣に議論にお出なさるじやありませんか。

メレは此子が大好で、そうしていつも大自慢でした。元セドリックの誕生の頃から居るので、主人がなくなつてよりは、お三どんも、小間遣も、兒守も、何も彼も一人で兼て居升た。此女はセドリックの文優で屈強な躰つきと愛らしひ樣子振が自慢なので、殊に額の邊に波打つて、肩へ垂れかゝつて、一層の愛嬌を添へる艶かな頭髮が大自慢でした。それ故、朝は早く起き、夜は夜なべまでして、セドリックの小裁の着物の仕立や、修繕を手傳ました。

サウサ、あれが本當の品とでもいふのだらうよ、大家の坊樣

だつて、うちのの樣な器量や、推出しの好のは、ほんとうにありやしない、奥さまの齒いおめしを直して、拵らへたのだけれど、アノ黒びろうどの服を着て、外を歩るいてゐらつしやろうもんなら、どんな男だつて、女だつて、子供だつて、ほんとうに振り返つて見ないもんなんかないから、丸で華族樣の若樣の樣だ。

と人に云々しました。

セドリックは自分が若樣のやうだか、樣でないか知りませんかつた。全躰若さまといふものがどんなものかといふことさへ、知らないのでした。自分の一番の友だちといふは、角の萬やの亭主で、音に聞えた癇癪持でしたが、セドリック丈には一度も怒つたことがないといふ評判でした。名はホッブスといひましたが、セドリックは此人を大層尊敬してゐまして、彼の人は余程の金持で、エライ人物だと思つてゐました。なぜかといふと、其人の店先には、杏子、無花菓、蜜柑、ビスケットと、種々雜多の品物が竝べてある上に、馬と荷車が置てあつたからです。セドリックは、牛乳やも、麵包やも、林檎やのおばあさんも好でしたが、中で此ホッブスといふ人ほど好な人はなく、例へば毎日逢に行つて、對ひ會つては、其時〱の事をいつまでも話てゐたといふ丈でも、どの位懇意だつたといふことが分ります。二人が寄れば、いつも話しが盡なかつたといふことは、實に不思議な樣でした。先七月四日の獨立祭の事などです、獨立祭の話しが始まれば、實に切がない樣でしたが、ホッブスは英人といへば大の反對で、或る時革命の話をすつかりセドリックにして聞せましたが、其中には、敵の姦惡、身方の勇士の功名などに付て、隨分異樣に聞える愛國的の談話が雜つてゐました、其の上獨立の宣告文まで言つて聞せました。セドリックが此話を聞てゐる間は、眼が光り、頰が赤くなり、髮がピタ〱に汗になるほど、一處懸命でして、家へ歸つて、母に話をするのを、御膳の濟まで待てない位でした。セドリックが政事のことに注意する樣になつたのは、全たく最初、ホッブスの仕込の故であつたのでした。さて、ホッブス氏は、新聞を讀のが大好でしたから、ワシントン府にある事柄などは、いつも精しく話して聞かせました。それでセドリックはコウ〱で、大統領が義務を盡してゐるとの、又コウだから義務を盡さないのだといふ話しをも、感服して聞てゐました。一度選擧があつたときなどは、セドリックは大層夢中になり、何でも豪勢なもんだと思ひ、自分

とホップス爺さんがゐなければ隨分國の安危にも關らうかといふ威勢でしたが、ホップスがある時セドリックを連れて、たいまつの行列を見に行ましたが、行列の人の中には、其時ガス燈の側に立つてゐる、肥つてヅングリとした人の肩車に乘られた少さな奇麗な男子が大聲に萬歳を呼ながら高く帽子を振つてゐたことのあるのを記臆して居ましよう、忘れないでしよう、夫がセドリックです。丁度此撰擧騒の直ぐ跡で、セドリックの七歳と八歳の間の頃でしたが、此子の生涯に大變動を起した一大事がありました、然してまた丁度此日にホップス氏が英國や、英國女王の話をしてゐて、米國には例のない貴族といふものの講釋をして、大層烈敷ことを云ひ、殊に侯爵とか伯爵とかいふものに對して、非常に憤ほつてゐましたが、跡で思ひ合すれば、此日は實に不思議なとでした。

其日は朝から大層暑くつて、セドリックが友だちと一處に兵隊の眞似をして遊んでゐて、恐ろしく熱しましたから休息しようと思つて、ホップスの店へ這つて行きましたらホップスは折節朝廷の儀式の圖のやうなものが這つてゐるロンドンのある繪入新聞を讀んで大そう、すさまじい顔をしてゐ升したが、

よしいまの中、さんざ高上りをして、下々の人を蹈つけるが好い、今に見ろ、蹈つけた人たちに、イヤといふほど飛し擧られるから(是は暴徒、ダイナマイトの類を云ふ)わしのいふとに間違はない、みんな眼を開て見てゐろ。

と言ました。セドリックは此時いつもの通り、高い倚子にチョンボリ腰かけて、ホップス氏に敬禮を表する爲、帽子を後ろへ推遣り、兩手をポッケットの中へ突込んでゐましたが、ホップス氏に向ひて、かふ尋ねました、

おぢさんは、侯爵だの、伯爵だのといふ人、たんと知るノ?

ホップスは少し腹立氣味に、

そんな奴知つてゐてたまるものかよ、わしの店へでも這つて見るが好い、どうしてやるか。弱いものいぢめをする壓制貴族め、こゝらの明箱へなんぞ腰をかけさせてたまるものか?。

と四方を睨へながら大威張に自說を陳て、汗でポツ〳〵と湯氣だつ額を、拭てゐました。セドリックは譯は分ぬながら、どふか不仕合らしく聞る其侯伯たちが、ひどく氣の毒にあり、

おぢさん、夫れは何にも知らないもんだから、侯爵なんぞにあるんでせう?。

といひました。スルト、ホップスが、

どふして〳〵、大威張りなのさ、ナニ生れ付ての分らずやあんた、不埒千万な奴等だ。

と話の眞最中に、下女のメレが顔を出しました。セドリックはお砂糖でも買に來たのかと思ひましたが、そうでもなく、何かビックリしたといふ樣子で、少し面色が變つてゐました、坊ッちやま、お歸りなさいよ、かあさまが御用ですよ、と云ました。セドリックは彼の高い倚子から滑り降り、

ソウカへ、かあさんと一處にどつかへ行のかへ？おぢさんさよなら、又來ますよ。と云つてメレと一處に出かけ升たが、メレが肝がつぶれて、物がいへないといふ面附で、自分をチツト見てゐるのを、何故かと思ひ、引ッ切なしに首を振つてゐるのに不審をうちました。

メレや、どふしたんだへ？あついのかへ？。と尋ねました。

イヽへ、ですがね、どふも不思議なとにあつて來たと思つてゐるんです。

ナニカへ、かあさんがひなたへ出て、頭痛がなさるのかへ？と心配そうにきゝました。

併し、そうでもなかつたのでした。うちへ歸つて見ると、戸の外に小馬車が留めてあつて、誰か小坐敷におつかさんと話しをしてゐたものがありました。メレは二階へと自分を急がせて、白茶フラチルの余所行の着物に華なへコ帶をしめさせて髮のもつれを梳て呉れました。メレは口の中で、

ヘン、華族だつて、上ッ方だつて、しよふがあるもんカ、侯爵だとへ、マアとんでもない……

とぶつ〳〵言つてゐました。セドリックは何だか不思儀でたまりませんが、母の處へ行つたら、何とも話して貰われると信じ、メレが頻りに不束らしく口小言を云つてゐるのを、默つて聞てゐて、何も尋ねませんかつた。さて仕度も濟んで、下へ走り下り、坐敷へ這り升と、脊の高い、優しげな、鋭敏らしい、年とつた紳士が、安樂倚子に腰かけてゐて、其側に母が是も少し面の色を變へて、坐つてゐましたが、見れば眼には涙が溜つていた樣でした。

オヤ、セデーかへ……

と聲をたて、走り寄り、兩方の腕で子供をかゝへ、キスをした樣子が、何か驚いたとか、心配なとでもありそうでした。丈の高い紳士は倚子を離れ、彼の鋭い眼で、セドリックを眺め、眺めながら、痩せた頰を骨っぽい手で撫てゐましたが、先づ滿足せぬでもないといふ面附でした。やがて緩々した調子で、

サヤウカ、そんなら、これがフォントルロイ殿で御坐るか、

と云ひました。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

寄書

婦人の職務

まさを

天下の男子近日漸く婦人を愛するを知るも未だ之を敬重するに至らざるが如しこれ果して何の故ぞ吾人は猶豫なく斷言せん婦人が實際職業を取るを重ぜざるの風あるが故なり從て世事に迂濶なるが故なり教育ある婦人にして今日實務に從事せんとせば吾人は敢て勸めん新聞記者となるべしと……若し之よりも更に他の職業を問ふものあらば速記者たるを以て適當の職業なりと答へん……とは活眼なる國民記者の所論なりと覺ゆ近頃又婦人をして電話交換の業に從事せしめんとするものありと聞く喜ぶべきの現象なりとす今又一の持論を述べて更に他の職業をすゝめんと欲す即ち小學校教員是なり。

今の幼稚園教育の大任婦人の手中にあるを喜ぶと共に更に望む所は小學教師——貴重にして且大切なる小學教師——の任を純潔優美忍耐深愛の性に富める婦人の手に一任せんことなりこれ其尤も適當せる職分にして生徒心意の發達上好結果あらんこと疑ふべからざればなり英米の小學教育多くは婦人の手中にあり統計家は報告して

ボストン市	女子 一六四九、	男子 七四、	‖ 女子 一〇〇、	男子 四、四八
シカゴ市	一五九五、	六八、	‖ 一〇〇、	四、一二

ありといふ此比例は米國教育の消長に大關係あるものなるを信ぜんとす英國にても教員全數の三分の二に常に女子なりといふ日本に於ては

甲 某市街	女子 一六、	男子 一七四	‖ 女子 一〇〇、	男子 一〇八七、五
乙 某市街	九、	一〇八	‖ 一〇〇、	一二〇〇、

あることを見出せり元より是よりも更に進みたる市街もありなんサレ𪜈概して男女の數の殆と顚倒せるを知るべきなり願くは世上幾多の自重せる後進の女性諸君よ今より決心して自ら進で男性諸子の手より此大任を頁拶し去りて自任以て教育の途に當り婦人たるの實務に鞅掌せんことを。

チー、賤の女の最と純清！

豆陽土井生譯

月にも清き賤の女の生れはいづこ森のかげ、●青み茂れる梢葉や、その間輝ぐ大みそか、●是汝が若き美はしき、眼にみえし總てなりけり●幼なき君の逍遥は、又戯は、さびし荒野にそありけらし、●そこある塲所のうまことはなんで君がかんばせと心の樹生ふ叢のおぼろげは汝が玉髮の亂れかず、●そよ〳〵と木の葉に道を—戯れの—波ある東風に比べてもみめ、君があゆみのそのすがた●泉、泉—音なき清水の岩底に、うつらふ天を—眺むれば君の眼と思はなん、●岸の水ぎはに生ひ茂る若き水草の樣みれば宛然がら君のまつげなりけり●人跡のかつて絕へゐるうゐの山奥の淸きも、君のこゝろに比ぶれば、得ぞまさらまし、●實に沈重幽邃の活氣に充つる神聖の平和は、茲にあるぞかし●

歌よむことの難きにますは外國の詩を譯することぞかし、去るにまた世になれぬ稚兒の常として怖きものみたさ手だすこゝろのあどけなきさきみすのたはれごとはよきは先輩のおしへをこひ願ふになんかしこ。

文論

みれ子

●文章生樣　文章を練習するに最も注意すべき事は色々ありますが私の考ふる所に依れば書物を讀む時よく注意して文章の助けとなる文字章句を記臆するのが宜しかろうと存じます此注意がよく行屆くならば少し練習すれば文章は自らできましよふ○文を學ぶに模範を定めた方が宜しひと思ひます。平常誦讀する際に最も好む文章家の文を坐右の銘となし何度も繰返して讀むと自ら夫れに似る樣になります、而し模範を定めると同時に亦他の文章家の文をも成るべく博く讀なければなりません、人各長所と短所とありますから他の長を取て己が模範とする人の短を補ひ學ぶといふ樣するのが肝腎でしよふ。

●英語獨學　の事に就ては前に度々申しました通り全く始めから獨習するは余程困難です、而し不完全ながらも獨案內と申すものに便る外はありますまい。

●和歌山ふじ子樣　女用消息文は通常の往復文即ち候文ですなんたるの樣な言葉ではないと申します。

●同じ人　記臆力の事は何とも致し方はありますない世間に色々の山師があつて記臆力の強くなる藥とか、奇法とか云ふが事見實際には左程効能にある樣ではりました、記臆力は自然に備つたもので少しつゝ之を養つて強くする事はできますが急に本性を變へる事はできますまい○やさしき文を學ぶには近頃出版になりました古文學とか普通國文といふ樣なものが宜しひと思ひます代價は五六十錢以下でしよふ。

●鬚髯女史樣　の女子に髯の生へるを治す法は分りません、毛拔もてぬきさるより外詮方あるまじと何人に問ひ合せても申します髯の生へるのを止める藥とて格別ない樣です。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

時事

○みをつくし一出一沒

立憲自由黨正に成る、先づ一賀せざる可らず。自由、改進、文字の爭そひ、些細の事に似て、當路の人には莫大の影響あるべし、吾人は人間の事を論ずるものなるが故に、左して之を咎めず。但だ、何故に組織會は五日后迄で猶豫すると能はざる乎、又何故に左程改進黨が世に好かれぬかと、一疑せずんばある可らず。然れども、政海の事は、深き海の如し、表面丈け見て彼此と云ふべきにあらず、只ポリチシアンの爲す事は爲すが儘に任せよ、源盛平衰、一朝の流轉にすぎず、百姓は依然として耕やし、教師は常の如く教へ居る也。大改革者は須からく其根底に着目すべし。

○合同談判破裂の顚末

島田三郎君之を記し、廿六日の每日新聞紙上に見ゆ。其結末に云く、

予は旬日餘政友の後へに隨するを否みず局外者の側らに笑ふを厭はず離間讒搆の身に集まるを意とせず力を此間に致せしと雖今日に至りて事徒勞に歸したり是を聞きて離間果して効ありと欣舞する者あらん彼果して睚眦せしと大笑するものあらん想ふに今より十日以前に談歎歩を進めしめば離間入るに由なく末流の聲諸派の領袖を動かすの暇あらずして大策成就せしならん然れども其行はるゝと行はれざるとは命なり予は自信の誠を致せしのみ但衆多の舊政友が見て以て政敵とする人々にして其政論主義相同きのみならず其精神意氣敬愛すべきの新政友を此間に得たると少きにあらず假令人爲の疆界其間を隔つるも豈に後日相携提して國利を計畫するの機會無からんや是れ大目的の遂げ得ざりしに拘はらず予が新得の一大利益なりと信ずる所なり。

誠意の人、誰か之を讀みて淚を落さゞるべき、吾人は切に同情を表す。

○元寇紀念碑

東京高等女子師範學校御雇教師米國婦人ミス、オサベラ、プリンス及ミス、メーリー、プリンス兩女教師には淵澤ノエ子を紹介者幷に譯者として同道し元寇紀念碑發起人湯地雄吉谷滿二郎の二氏に面會して種々談話を爲し大に贊成なれば同志を募りて應分の力を盡すべきことを約されたる由、而して同日の談話中には、

（プリンス女史）私共は日本にて此企てあるは獨立國たるを表する爲め又教育の爲め最とも有益と思ひます私共は本國にて讀みたる書物中に蒙古が日本を攻めんとしたる時日本の愛國者が奮起して防禦し苦戰し偶たま神風の起るに會して蒙古は殆んど殲滅したりとの事あるを見ました今ま此の紀念碑建設の擧あるは喜ばしきことと存じます私共も贊成義捐致します米國公使にも話したら贊成するでありましやう………日本は女子の教育が後れて居りますから愛國と云ふ念慮が婦人に薄くあります婦人と雖ども知覺を備へたるは男子と變りませんから教育さへよければ斯樣の事件には喜こび勇むものであります。

紀念碑建立の適宜不宜は暫らく言はず、之は愛國獨立の氣象を鼓舞するものとして贊成するに至つては大ひに賞賛すべき心掛と云ふべし。外國婦人が日本の事を思ふすら如此し、わが姉妹が親から日本の事を思ふは一層親切ならずんばある可らず。

因に云ふ、同女史訪問の記は、くわしく本誌第二百十三號に見ゆ。

○貴女之友

數月休刊したる貴女之友は、去廿五日再たび出でたり。前よりは印刷や、鮮明となりぬ。

○市川粂八樣にまゐらす

との文、三木竹二氏の筆にて、しがらみ草紙に見ゆ、女優は女らしく、女らしきところを公せ、劇洲の眞僞は、眞僞はどはいよ〳〵見にくしとの主旨なり。

○劇塲に於ける男女

初めは女のみにて致しぬ、中頃ろ男子をも混じぬ、弊害夥しきによりて遂に男女の混淆を禁じたる、我國の歌舞伎演劇に付きては、今后何如にすべき、福澤氏は男が女の裝はひを爲して眞に迫るは美術上の名譽なりと云ひ、外山末松の改良論者は追て女優を混用すべしと主張したり。然るに、此度び劇塲取締條例の出でたると共に、去廿二日田中警視總監より訓令ありたる次第左の如し、

府下演劇の儀は男女俳優混合にて興行せざるは古來の習俗なれど右に關しては規則上別に制禁もなく歐洲各國に於ては男女混合の例もあれば將來混合興行の塲合に於ては不問に附すべき筈なれば此旨心得べしとのこと。

取締は何如にも嚴重にすべし、男女の優合して其藝の二つに分勞せんとするは、先々一進步と云ふべき乎。

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

○女醫學校

高木兼寛石黒忠悳の諸氏は我國の醫師が漸次進歩するの傾きあるに拘はらず女醫の多からぬは全く之を養成するの校舍無きによるべしとて今度女醫學校を設け婦人專門の醫術を研究せしめんとの計畫あるよし。

○私立女子授產場

潮田ちせ佐々城豊壽兩女史の發企に係る私立女子授產場は昨年來設立の計畫をなし居られしが會員準備調ひたるよしにて今回其事務所を麻布區市兵衛町壹丁目十五番地に置かれ來る九月十六日より開場せらるゝとの事なり而して當分の內は刺繡繪畫及彫刻編物等の數種を教授せらるゝに止まれども追々には規模を擴張して婦人の職業に適する技藝は概ね當場にて授くる事とせらるゝ筈なり尤も當場は其題號の如く女子授產を目的とせらるゝものなれば初めより無月謝にて教授し三ヶ月を經たる後は其練習に供したる物品に就て相當の賃錢を支給し以て生徒の便益を計らるゝよし教師は當場の爲に米國より派遣せられたる女教師壹名外本邦婦人數名なり。角筈村の女子獨立學校と云ひ、此授產場と云ひ女子獨立の爲には此上なき頁き數への處と云ふべし。

○女子事業學校

之も亦た同樣の企だてにして、而して一種雄壯の氣を含むものに似たり、杲山英女史及び小松崎こと女史の發起にして、近日赤坂溜池に於て開場すと聞こゆ。川口雲井女史と云へる人も同名の學校を建てんとするよし。初めは一つの發起なりし由なれど中比ろ分れたるものと見ゆ。兎に角、かゝる女學校の出來るは喜こばしきとなるべし。

○岡山孤兒院

誠實博愛の念を以て創立せられ、只だ信仰によりて維持せらるゝ岡山孤兒院の事、現況何如あらんかは仁士の日夜に掛念する所ろなるべし。去五月の決算表を見るに、

五月中寄附金	五十一圓十七錢
預兒月俸	七圓
前月より越高	百六十三圓五錢五厘
合計	二百二十一圓二十二錢五厘
支出	百二十圓四十四錢
差引殘金	百圓七十八錢五厘

右の如きよし、同院へ向け寄附あらんとする人々には、吾社取次の勞を辭せず。

○鳥取出獄人保護會

此會を起さんとて義に義捐金を募集するものあり、目下夙に五百四十圓ほど集まりたる由。

○小學校女生の席順

切めて小學校丈にても純然たる男女合敎(コエヂウケーション)の風になすべし、然るに矢張り男女の席を分ち、もしくは男生のあとに女生を置くが如き、自づから一種の差別を定め而して差別ある處ろに必らず女生を男生の下にするは好ましからぬ處置と云ふべし。西京下京二十四組の學校は校長中山熊力氏の考にて、男女生を交るく着席せしむと、是又一方なるべし。

○橫濱婦人慈善會

慈善會亦一種の交際場の如くなる時、橫濱婦人慈善會の如きは實に卓夢のものと云ふべし。此はメソデスト教會員稻垣末子二宮某二氏の主唱に係はり昨年十一月の創設として日尙ほ淺きにも拘らず月に盛隆に赴き已に二千有餘の會員を有す本年金融切迫の折究民の爲めに成せし働きは實に偉なりと云ふ。又同會は貧民病院、貧民救助場を設立せんとて市の東南の方角に當る鐵砲場側に三百坪の地をトし已に近日其地均おも終るべくとすれば直に建物の仕事に取り掛る都合なりと。而て右慈善會には內外の貴女紳士の加入助力するもの特に多しと云ふ。

○開校式、閉校式

クロージング、エキザーサイス、又は、コムメンスメント、エキザーサイス、など稱へ、女學生年中の技倆を世に示すは好き思ひ付なれど、之が爲め、暗誦下たよみなどに數ヶ月を費やし、切角勉強の時間を徒費せしむるは氣の毒のとなり。チヤトウクワン雜誌の記者は云ふ、此弊殆んど極まり、今や改革の聲きこゆ、或る女學校は之が爲に衣服を質素にし、又或る女學校は一切の贈り物を止めたりと。我國にても追々競そひて其式を宏大にせんとする兆ざし見ゆれば、今の內に之が勢ほいを挫くこと大切なり。

○女學校の遣ひ物

遣ひ物は、或る意味に於て賄賂なり、又或る意味に於て愛のしるし也。然るに物は兎角あやまりに走り易く、遣ひ物の爲に非常の害を引き起し來るとあり、特に女學校の如き所ろにては尤とも愼しまずんばある可らざる也。今や夏休みの女生八方より贈り來る、凡そ女學校の敎師役員たるものは、此際一切生徒の贈り物を受納せざるの規則を新設すべし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○平民院

二年前の本誌に揭載せし、小說家アタルー、ベサントの理想鄕はゞに實際となり、英國の識人"All Sorts and Conditions of men"に感激して、忽ち、平民院を設立し、女王陛下之に臨み、士民上下となく樂團す、そも何等の學舖でや○設立后二年間の雜俗を見るに、成果いよ／＼宜し。初年には、十五才乃至二十五才の青年男女にして、二週間音樂會に臨み、又た諸展覽會、體操場、交際部屋、共に自由に出入し、且つ低月謝を以て夜の講義に臨み得るの切符を買ひしもの、四千二百人あり。又た秋の美會並に六週間の繪畫展覽會に、二錢の切手にて入覽したるもの三十万人ありき。第二年には、入浴するもの十万人、夜の講義に臨むもの五千五百人、手藝學に入りたる子供四百人あるに至れりと。此の平民院は、ロンドンの東端、極貧の民が集まつる所ろに建設したるものなるが、常ならば迚も見も聞も味わひも出來まじき、快樂と學藝とを、此の有志者の慈善方法あるによりて尤も廉に點まるゝとを得、宛がら地極界に天國の一小出店を置くの狀あり、うらやましきほど慈みあるの計畫と云ふべし。

○レーナン、ゾラを評す

其昔は神子とせずとも大聖とは見做さゞる可らず、佛蘭西のレーナンは之を否むる迄に墮落せざる也。レーナン、近頃ろゾラを罵評して曰く、讀者よ君はゾラを以て寫實派の小說家とおもふ乎、惟ふに誤し彼は寫實派の一人ならん、然れども天然には惡人の傍はらに善人あり、濁水の邊りに清流あり、ゾラもし寫事を爲すとせば其兩方を寫さずんばある可らず、今の彼の如きはたゞ醜劇なる寫實派と云ふとを得べしと。

○獨逸國に於ける惡小說

獨逸國に於てゾラの派に屬ふ小說家をコンゲスト、シェルマン（尤劫日耳曼人）と稱す、此流亦た跋扈すると能はず。此頃ろライプチツヒの高等法院は、此流の小說家三氏——フリードリツヒ。ワルロツス。マムラド、アルベルチーを召喚し、不道德の小說を作りたるの故を以て、罰金百五十マーク乃至三百マークを科せり。

○伊澤けい女史　華族女學校の秀才女生たる同子肺病にて去廿一日死去す、波多野傳三郎氏より求ばりたる傳あり、大破に就まん。

○京都府高等女學校　には此期より唱歌專修科を置き一ヶ年即はち三期にて卒業す。

○稲垣秋香女史　仙台女學校を去り、此期より仙香村の獨立女學校に教授す。

○靜岡婦人矯風會　の發起にて來日禁酒大演說會を催ふし東京より大家一名を聘せんとて、加藤米子女史わざ／＼上京せらる。

通信

三重縣四日市町通信

●女學生　當港はヤツト近來商業のために世に名を知られ往來する人も多くなりし程にて小學校をも卒業する女子は更になきとなりしが追々進む開明に連れてや昨年の四月には高等小學卒業生六女を出せり又遊學せるもの橫濱フエリス女學校へ田中さん東京英和女學校へ笠井まつ津市女學校を卒業して教員をなすもの田宮きくへの三女なり

●女學校　昨年六月末頃米人レナ、レダナ嬢來泗以來女學校設立に盡力されしが愈來る九月より四日市女學校の名を以て開校し目的としては完全優愛なる妻女婦人を養成するにありと

●婦人會　會員の多くは官吏の妻君嬢君なり毎月一回四日市尋常小學校にて開會し講談を聞くとのと而して講師には小學校長、郡吏、醫師等なり、又會頭は大河内はま女なり

廢娼記事

●神奈川縣

佐々木笑止郎菅間德二郎其他の諸氏目下日々彼の廢自調印を促がし四方に盡力せらる、島田三郎氏と候補者を爭そひし鈴木裕之介氏も已でに調印せしよし、又二氏は二十五日より同縣下の各地方へ遊說す。

●上毛

縣下の今委員會を開き、愈々又た蹶起せんとす、と石島良三郎氏の來報に見ゆ。

●甲府

巖本は二十八日出立、甲府地方へ廢娼演說の爲め巡回す。

週報

○官令　本週勅令第百七十九、八十號及び法律第六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三號等を裁可公布せらる

○宮廷　二十一日宮中に於て親任式を行せらる

○政治　十九日各大臣は登閣して會議を開けり同日大審院長尾崎忠治氏樞密顧問官に任ぜられ二十一日を以て西成度氏大審院長に任ぜられたり●二十日山田司法大臣の官邸に於て民事訴訟用印紙法に關する件を議せられたりと●二十二日中立派の議員は芝愛宕館に於て會議を開けり●二十三日進步黨合同論者は大井卓氏の邸に於て會議を開けり同日舊自由黨の諸氏は諸集會を神田表神保町大井邸に開けり

○雜報　二十日華族會館は鹿鳴館に移轉せり●二十二日暴風雨にて各地電信及び滊車不通と爲れり●廿三日碁伯十五世本因坊死せり

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

第二回和歌懸賞答詠

第二回懸賞和歌

夏山家

第一等　寺田えが子

、岩清水流るゝ音の涼しさをきく山住は夏ともなし

評　中句あまりくだくし

第二等　竹内たけ子

、塵の世の夏をはなれし我山の松の木蔭は蟬のこゑのみ（に高くも　そなくなる）

第三等　長谷川ふさ子

、杉立るかとへなかるゝせゝらきの○おとも涼しき山の庵戸（を　○静けきそ　かりける）

無難の部

小笠原

、心さへ静なりける山里のすゞしさそゆる軒のまつかせ（天つ日も峯にかくれし　夕　き）

評　心は常にいさ騒がしき答のものならばさへの如き潔き辭を用ふべきもさる事にあらず又此處靜なりけるは宜しからず

中原種子

、世の中に夏は流れて出つぬらむひとりすゞしき山の瀧つせ（家山川の音の　さ）

評　山家の心おし

源つね子

、山かげや澤邊の風の通ひ來て夏の外なるまつのした庵（の岩間　にほうさき）

評　何しや何とといふやの音餘程上手にいはなくては陋しく聞え兩景物を出たる詮はなくなる也

花子

、うつし世の外かわらぬか谷川の流れ涼しきなつの山さと（塵の　な流るゝ　音　聞く宿かりけり）

林ともえ子

、谷川に結ふ清水も吹く風も夏の外にそすめるやまさと（の水のひゞき　なる山の庵かな）

大江なつ子

、程とほき片山かげの住ゐは秋を待るゝ心地こそせね（○ありけり　もしらて涼しきは）

由井はま子

、山深く住かひありて○世の中の夏をも知らてくらす宿かな（○涼しきはうき　ぬ世けり）

水口しか子

、世の中の夏にこらさぬ山里はひるねの夢も涼しかるらん（なよそなる　りけり）

綠野つゆ子

山深く夏をのかれつ谷川の音のみ聞て暮しけるかな（世の中の夏はなかれぬ　すごろ）

水口たき子

谷川にこゝろも洗ふ心地して夏を忘るゝやまのしたいほ（世の中のおもひを　谷川に　も）

江島なみ子

世之中の夏をも知らで我宿に涼しくねむる鎌倉のやま（の　ひるさへも　ふ）

評　詠者は鎌倉山の人なるべしさいへば此處我宿にといひたる事何の詮もおし

關井りん子

茂りあふ軒ばの松をふく風に夏をよそなる山のしたいほ（時しらぬ　も）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

のがれこしうき世の夏をおもふにも
○庵よかりけり
都あらば如何に暑もつよからん深き山邊の○住やすきかな
鈴木鈴子

萩野秋子

音きく宿に世の中の夏も
くらす頃哉
山川の近きわたりのすまいには暑さ忘れて日を暮しけり
四尾晢子

夏をこそ遁れこしつき奥山に世をそむく身と人なとかめそ
根木重子

く出て
かくれて夏の日
谷の庵かな
出はおそし入は早くて他所よりも照間短きやまのなつの日
評初句と留句殊に宜しからず又家の心なし

いほり
しも遠くはなれてむすふ也けり
水淸き深山の奧は夏をさへ遁れて住める心地こそすれ
加藤はな子
評夏をのがるゝとはやがて、夏の熱さをのがるゝ心地也さらは心地のみにあらず實際のがれたるなり殊にさへるど強く云ふ處にあらず

しらぬ松のあらし
夏山を吹きおこす風を我物としめて涼しき山のしたいほ
雪　子
評ふたつのずの音いたく耳にさはれり

涼しく暮るゝ
瀧つせに晝のあつさや流れけん夏をよそなる木隱れのやど
夏野榮子
評ひろさいひけんさいひたる通古の景也さらは之に對したる現在の事をいはざるは心得す

涼し
おのづから心も淸くなりにけり浮世へたつる山のしたいほ
靑山繁子
評夏の心なし

風わたる椎の
涼さ
邊
茂りあふ深き木蔭の冷しきに夏は山家そ住みよかりける
築紫國子
評山家とは漢音にて古よりいはず

よそなる
松風の外にかよはんものもなし夏をも知らぬ山の下いほ
秋田いね子

家
岩
も碎け果つゝ
山里は夏こそしらぬ谷川の水にあつさをそゝき流して
山里雪子

下いほ
卯の花の雪にも道やたえぬらんとふ人もおきやまかけの庵
加藤きん子
評夏山家の題は淸涼を主とする故五月雨より後の景をよむへき也卯花は夏の初にして未熱からぬ時也

の夏を忘れけり照る日もうとき
遁れ來て浮世にとほき山の庵は夏をも知らぬ谷陰にして
高村もと子
評山の庵といひ谷陰といひ重複の心ちす

松かげの岩間涼しき
下
涼しさは木蔭にひゞく瀧の音に心もすめる山もとのいほ
佐々木茂子
評初五に涼しさはなど持出すは餘程上手にいはなくては

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

中原春子

うつせみの浮世のかれし山住は（も）夏とふ人を松のしたかせ

評　かけ言葉に必自然に出ざればあしき也此處故意に松を待つとかけたるがあまり耳に立つ也

關文子

みどりなる水の色こそ夏はたゞ身を奥（おく）山のかひとおもはめ

評　趣向には乏しきやうにて言葉づかひのみあまりむづかしく實景の感なし殊に唯水の色のみ夏山居の樂みにはあらざるべし

水邊晩涼

第一等　林さもえ子

、、川（岡）の邊の柳の本に月をなかめ（清水流るゝ夕月夜）夏も家路も忘れぬる（果つゝ）かな

評　柳は春感興あるものにて柳といはゞうちつけに春の心ちす

第二等　秋田いれ子

、、たかどのゝ軒の燈かけ見え。て（初め）波の音涼し鴨川のみず（くなりぬかもの川浜）

評　波の音といひ又川水とは人の難ずるの恐あり

第三等　竹内たけ子

、、清瀧の玉なす水に（石はしる瀧のしら玉）夕月の。影のうつろふ（きらめく）時の涼しさ（かりける）

評　清瀧とは川の名にて必清瀧川とつゞく也唯清瀧と云ふ事をきかず

優等の部

關井元子

、、松がねの岩まの清水むすびつゝあつさ忘るゝ（ふれに宿るもすゞし）夕まぐれかな（月の影）

水野鎭子

、、風そよく（わたる）五十鈴の川の水面せに（川波に）殘る（のこ）日かげ（夕）の（も）涼しかりけり

評　百人首に風そよぐならの小川のと家隆は詠みたれどそよぐとは風の荻の葉蘆の葉などの如きものに於て聲する景也唯川のみにては稍不都合あれど家隆は秋の景を遠ん爲にかくよみたるべし

點者は不充分とす

無難の部

高村もと子

、磯（荒）山の岩打かへす（に砕くる）白浪にくだけて涼し（のさやかに見ゆる）夏のゆふ（よの）つき

評　いと小き岩ですら浪は打かへす事出來ぬ也若し磯山を打かへしたらんには盤梯山の破裂にも劣らざるべし涼しの代りに怖しかるべし又是は海邊夏月也

加藤通音子

、吹風に峯の柳の。なびき（○青葉拂ひ）あひて夕べ涼しき川ぞひのみち

佐々木茂子

、風そよぐ（ふけば）池のはちす葉浪こえて（すのうき葉に）すゞしさうつす（くにほふ）夕月のかげ

評　趣向類歌あるやう也

小笠原靜子

、夏と秋のけじめもわかて（八幡山夏とも）涼しきは清水にやどす（る）夕月のかげ

評　上句くだくだし又清水も突然なるより上に八幡山を出せり

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

緑川（夕の）岸の柳の下涼み（かげに）袖ふきかへすゆふぐれのかせ（風そすゞしき）　源つれ子

評緑川とはいづこなるや又下涼しさか夕ぐれの風といへる留句皆宜しからす

夕たちに池の蓮葉露冷えて（のすゞし澤邊ののに）やどする月ぞ（れの）涼しかりける（さ）　水口しか子

夕月も木のま涼しく（風）匂ひそめて（吹立ち）風ふき渡る（月こそやどれ）みたらしのみず　緑野つゆ子

隅田川水の上吹夕かぜは夏てふ事や忘れはてけん　加藤さな子

水清みあしの葉風の（夏ながら）うちかへす（末そよぐ）夕波すゞし（風）隅田の川ずら（づ）　高橋こま子

評隅田川の水は清しともいはれず清さは加茂川也又實際隅田川に蘆多きや蘆なくば此點は除くべし

青すゝき（眞菰草）なびく川邊の涼しさは夏の夕とおもはざりけり　寺田すが子

夕さればすみ田川原におりたちて月ふむ（見る）袖は涼しかりけり（ぞ　る）　四尾いな子

評詩には月をふむといへど歌にはいさいはず月の影をふむといふべし

暑をばそゝぎ（天つ日のきえ）流して夕月の影をやどせる瀧（れ山川）のすゞしさ（こそ　水）　萩野秋子

身にしみて涼しかりけり夕ぐれの川邊に（の浪間）秋の忍び來ぬらん（ながれつ）　鈴木鈴子

夕まぐれ岩間落くる水の音はすゞしきもの（晝のあつさを洗ふ也けり）ゝかぎりなり　大澤たつ子

夕まぐれ（されば清瀧）この川風のふく波に（し）日かげこぼれて涼しかりけり　山里雪子

評夕ぐれとは黄昏也日影はあらざるべし

夕さればはすもる風の涼しきに（さ）あつさ忘るゝ（夏さもしらぬ）川づらの宿　築紫國子

夕まぐれ月もながるゝ（のうかひそめつゝ）角田川あみうつ音も涼しかりけり　水口しか子

評月夜に角田川にて網うつや

早瀬なす（谷川の清き流に）谷川水に月見えて（てり）稲葉か上に（吹こす）夕かぜぞふく（の涼しさ）　江島なつ子

さらぬだに涼しかりける（きものを加茂川の波にやどれる夕月のかげ）河づゝみ月を清水に宿しつるかな　廣屋きん子

評川は清水にはあらず又晩の心なし

ふき通ふ（くれわたる）池の面の（蘆原ふく）夕かぜに蔭みたゝる影のすゞしき　夏野榮子

評納涼は酷暑の候也螢は其前が適也

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に渉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす毎科受持の教員孰れも熟達善良あり然して本校の教授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所あり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地

東洋英和女學校

廣告

京都府今出川

同志社女學校生徒募集

本校は九月十六日より授業を始む入學志願の方は九月十日迄に申込あれ規則書は郵券二錢を添へて御申込あれば早速送達すべし

看病婦生徒募集

○入學志願者ハ九月十五日迄必ス申込可シ○教授ハ書籍口授臨床講義實地傳習等ニテ細大漏スコトナシ○學資ハ薪炭油看病服書籍寢室等給與スルヲ以テ食費トシ一ヶ月大凡金貳圓五拾錢ノ外要セス○規則書望ノ向ヘハ直ニ送附ス

京都烏丸通上長者町

京都看病婦學校

本校來る九月一日より授業を始め豫科本科各級へ新入生を募集す有志者御申込あれ

東京市芝區三田功運町三拾番地

私立

普連土女學校

栴檀は二葉の時より香しく、鸞鳳は雛の時より其聲諸鳥に勝る‖少年諸君が常に尊び慕ふ所の英雄豪傑も亦襁褓の時より其言行常人に異る所あり。此書は日本支那西洋の三國に於ける英雄豪傑忠臣孝子義士仁人が幼時に於て爲したる事蹟百件を羅列したる者なり。今名けて小兒百人傳と云ふ

郵券代用

松山いろは編

小兒百人傳

金十五錢

議員撰擧の廣告

○撰擧方法○『小兒百人傳』中に記載しある百小兒の言行を比較し、其最自己の意に適したるもの三名を撰擧す

○撰擧區畫○日本より一人、支那より一人、西洋より一人、都合三人とす。

○撰擧人の資格○被撰人は『小兒百人傳』中に記入せられたる小兒に限る、撰擧人は『小兒百人傳』の購讀者に限る。

○撰擧期日○八月十日より九月三十日に至る滿五十日間とす。

○投票用紙○『小兒百人傳』購讀の際配布せし用紙に限る。

○投票届所○東京日本橋區本町二丁目三番地東京教育社編輯部宛

○附則○(一)當撰の三小兒が辨論を爭ふの想像石版畫を彫刻して之を世に公にす(二)當撰人の指名者には前項の想像畫各一葉を贈與す(三)撰擧人の住所姓名不分明なる投票は無効とす。

苦しからす

鏡に對して映するにあらざれば以て其容姿を整ふると克はず英傑の傳記を讀むにあらざれば以て其氣象を壯快ならしむると克はず小兒百人傳は實に少年諸君の氣象を壯快ならしむる目的を以て編纂したる者也

東京日本橋區本町二丁目三番地

東京教育社

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

○女生徒募集

本校生徒第一年級第二年級募集候條志願者ハ來九月十五日限中出ベシ其手續等ハ本校ニ承合スベシ

廿三年八月

京橋區南小田原町四丁目八番地

東京府高等女學校

女生徒募集廣告

本校從前ノ如ク九月十六日ヨリ授業ヲ始ム今般新ニ別科生ヲ置キ年限及ビ授業時間ヲ短クシ最モ必用ト認ムル科目而已ヲ撰ビ授ケ晩學者ノ益ヲ圖ランドス入學志願者ハ九月十日迄ニ申込アレ

廿三年八月

築地三十八番地

私立 **立教女學校**

新入生徒募集

來ル九月ヨリ校則ヲ改正シ尋常小學部幷ニ幼稚園へ新入生徒ヲ募集ス○尋常小學部ハ普通課目外ニ英語ヲ親切丁寧ニ敎授ス○幼稚園ニハ今回新ニ保姆ニ熟練ナル「エダ」孃ヲ招聘シ專ラ保育ヲ擔任セシム○本校ハ亦英語編物及音樂ヲ[illegible]學バントスル女子ノ望ニ應シ親切ニ敎授ス

麴町區下二番町四十六番地

私立櫻井女學校附屬 **尋常小學校及幼稚園**

女學生募集

本校豫科本科ニ入學志願者ハ九月八日迄ニ來校アルヘシ校則入用ノ方ハ郵劵二錢ヲ送ラハ呈スヘシ

仙臺市東三番丁七十五番地

宮城女學校

生徒募集廣告

夏期休業后豫科、本科、撰料、共各級入學ヲ許ス有志ノ者ハ九月五日迄ニ願書携帶出校アレ

規則書入要ノ者ハ郵劵二錢ヲ送ラルベシ

受持敎師（イロハ順）

●納所辨次郎 ●上眞行

●山田源一郎 ●小山作之助

●鈴木米次郎

神田新銀町十番地

私立 **共立唱歌學校**

聖經女學校生徒募集

横濱山手二百二十一番

本校九月十五日始業ス年齡十八年以上聖經研究志願之女子入學ヲ許ス九月十日迄申込ムベシ

規則書入用ノ方ハ郵劵二錢御送付アレ

●○脚氣患者諸君よ左の○●

廣告を讀んで世に名灸有るを知り玉はんことを

● 官許專門 天下無比 **かつけ根切灸點術** ●

附言輕症は一二度如何ある重病と雖ども四五度限り全治受合○灸治効能男女を論せずかつけは勿論腰より下の冷て痛む病に大効ある事受合論より證據實驗あれ○當時拙家近邊に類似の家號名乘る同業者出來たるに付番地家號篤と御注意の上陸續御來車あれ

京橋區本材木町三丁目二十一番地松屋橋通り

壽福堂

東京市麴町區下六番町六番地

發行所 **女學雜誌社**

編輯兼發行人 巖本善治

印刷人 堀口庄三

遞信省認可

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY